

「地域市場再発見 ～茨城・栃木・群馬～」

カンサン

現場作業を知り尽くした工場デザインで高効率化を図る

洪川のカンサンは半導体産業の活況を受け、内面研磨等容器整備ビジネスが堅調を維持。鈴木実社長は「21年度の業績は売上が10%アップ。営業利益も前期より増益になった」とする。容器再検査需要の急増で、耐圧試験場が高崎事業所だけでは足りなくなると、洪川事業所に新たに耐圧試験設備を増強。3月末より新耐圧場の全設備が稼働とな

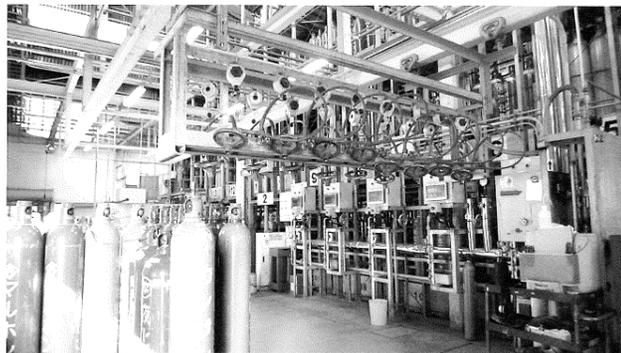
る。興味深いのは、耐圧試験工程を安川のロボットを用い全自動化したこと。同社技術部が数種類の作業工程を最速で行えるようロボットをプログラムしたオリジナルのシステムだ。現状、新瓶研磨や塗装のみも入れ、全社で月産4500本以上を処理しているが、工場増強により、月産6000本以上の処理を目指していく。

鈴木社長は、容器の加工業務などを担当している技能実習生のベトナム人は熱心で「質のいい労働力」と感じている。さらにステップアップし、追加で受け入れるベトナム

自動倉庫は4段組で立体駐車場の要領で16本入りパレットが上下左右斜めに行き交う。パレットナンバーを押す瞬間に降りてくる



液の充填場では特注の5輪円板キャスターの上にLGCを設置。LGCは転がさずに押す



充填架台にポンペを固定するのではなく、充填装置をレールでボンベ列の上へ移動

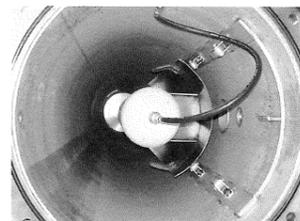


荒井部長(左)と鈴木社長

ム人の教育係になつてもらうようパソコンも特訓中。漢字に苦労しながらもフォークリフトの免許も取得した。「できるところは自動化してもどうしても人手で行わなければ

いけない部分がある。その部分を優秀な彼らに託したい」。また、域内のガス需要動向について、インダストリー営業部長の荒井誠樹取締役は「自動車関連が下期に悪く、県内自動車メーカーは9月に続き2月も生産調整して散々だ。ガスの値上げをお願いしているのに、さらに原油高騰が続き、電気代が上がるのは痛い。どうしても価格転嫁は遅れるためすぐに収益に影響する。食品や半導体はいいが、県内自動車メーカー城下町の太田など、車が不調だとダメージが大きい。食品加工工場は冷凍食品のライン増強などが活

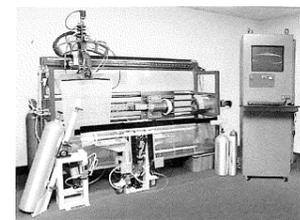
豊かな地域社会の実現に向け、技術開発やサービスの改善に注力



コンテナ容器再検査



高圧ガス立体自動倉庫



超音波法再検査

【アメリカ運輸省容器再検査認証工場】

カンサン株式会社

本社 群馬県渋川市中村1118
TEL.0279 (22) 2761 FAX.0279 (24) 5254
info@kansan.co.jp www.kansan.co.jp

発。食品工場へのガスや機械の納入は堅調。また、菓ごもり需要増などを受けてか、新たな工場を追加する動きがあり、鉄骨がよく、建築関連も業績がいい。公共事業も増えている」と語った。

マルホン

高崎に本社のあるカンサンの関連会社マルホン（堀口吉彦社長）の今期売上は微増で推移する見通しだ。取締役の鈴木武医療事業本部長は「昨年の第5波のときにはハイフローセラピー装置の販売やレンタルが増したが、第6波では、首都圏で酸素濃縮器が足りないという情報があったが、オミクロンは肺炎症状が軽症で、大きな動きがない。患者さんが出歩かないので、酸素の出荷量はむしろ減っている。エリアのH1O1患者は

少しずつだが着実に増えているのだが……。一昨年8月にH1O1患者対応エリアを増やすため、栃木インター営業所を新たにオープンしたが、そちらの拡販は、これから。自社の強みをアピールして、1件ずつ営業していくしかない」と語る。それでもコロナ関連では、高齢者施設などへのボンベセットや酸素濃縮器の設置など、緊急時対応装備の需要や、ワクチン接種会場のアナフィラキシー用の酸素の注文が度々入るなど、新規の需要は増えている。

食品加工関係や水処理案件などにタンクやポンプといった装置もあり、ガス以外の提案の種類は増している。太田は自動メーカーの街だけに、メーカーが調子悪くなるとガスは瞬時に影響を受ける。このエリアのガスの需要は未だに厳しい。リークテストのヘリウムが出るものの、ヘリウムの仕入れは安定せず、販売には工夫が必要。とくにレーザガス等は在庫を増やしていく必要がある」と語った。



鈴木医療本部長(左)と橋常務

医療以外では、建築鉄骨系が回復しており、徐々にロボットや加工機械・ガスレーザなどが出るようになってきた。来期にも期待が持てるという。橋倫明常務取締役は「工場のライン増設などの動きがあり、炭酸ガス、酸素、窒素も伸びてきた。20年には展示会が一切できなかつたが21年の春に開催でき、その効果もあって溶接機の販売に繋がり、溶材も増加で推移する。工場設備を手掛ける産業機器部隊が比較的忙しく、クレーン等大型装置や配管材、製造工場の自動化ロボット等の納入があった。ラインの自動化のニーズが強く、圧縮空気用コンプレッサーの需要も増加している。